

第2学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「みの回りのものを読もう」 教材名「みの回りのものを読もう」

2 単元の目標

身近な語句の意味や役割に気付ける。案内の中から目的に必要な重要な語や文を考えて選び出せる。言葉の働きを確かめ、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①身近な語句の意味や役割に気付いている。（〔知識及び技能〕(1)オ）	①「読むこと」において、案内の中から目的に必要な重要な語や文を考えて選び出している。（C(1)ウ）	①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

（1）単元について

身の回りの掲示や案内から、目的に必要な語や文を選んで読む。文字の大きさだけで重要さを決めない。学習指導要領のC(1)ウを中心に据える。関連する知識・技能として〔知識及び技能〕(1)オを、言語活動の中で確かめる。年間計画の重点項目に加え、本案では〔知識及び技能〕(1)オを活動に関わる事項として扱う。

（2）児童について

（学級の子どもの様子を先生が書く）

（3）指導について

教師作成の架空の催しの案内で、目的・日時・場所を探す。実在の連絡先や児童の個人情報は載せず、条件の欠けた案内と比較して必要な語を考える。おおむね満足できる状況は、案内の中から目的に必要な重要な語や文を考えて選び出しているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

5 指導と評価の計画（全2時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○案内を読む目的を確かめる。必要な語や文を探す。	学習状況を見て支援する。
	2 （本 時）	○不足している情報を比べる。読み取った内容を相手に知らせる。	知①・思①（発言・学習記録）



6 本時の指導 (2/2)

(1) 本時の目標

案内の中から目的に必要な重要な語や文を考えて選び出せる。

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・ 予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	本時に使う教材・前時までのノートを確認、自分の最初の考えを短く書く。 ○「この案内を見て行動するには、どの言葉を確認する必要がありますか」 【めあて】身の回りの掲示や案内から、目的に必要な語や文を選んで読む。 〈予想される児童の反応〉 ・ 何のお知らせかを先に確かめたい。	本時に考える対象を確認し、既に分かったことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。
展開 (分)	○「この案内を見て行動するには、どの言葉を確認する必要がありますか」 自分で言葉や本文の箇所を確認、理由を添えて考えを書く。ノートを見せて説明し、聞き手は分かったところと、まだ確かめたいところを返す。全体では考えが分かれた箇所を取り上げ、何を根拠にしたかを比べる。 〈予想される児童の反応〉 ・ 何のお知らせかを先に確かめたい。 ・ 日時や場所が分からないと行けない。 ・ 大きな題名以外にも大切な情報がある。	教師作成の架空の催しの案内で、目的・日時・場所を探す。実在の連絡先や児童の個人情報は載せず、条件の欠けた案内と比較して必要な語を考える。 想定するつまずき：題名だけを読んで行動を決める、図の印象から書かれていない内容を補う。 児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。 ◎思① 案内の中から目的に必要な重要な語や文を考えて選び出している。(発言と学習記録) ◎知① 身近な語句の意味や役割に気付いている。(〔知識及び技能〕(1)オ) (使った言葉・音読や表記の確認)
まとめ (分)	【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって分かったことを対応させて自分の言葉でまとめる。 学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。 〈予想される児童の反応〉 ・ 友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。 ・ 大きな題名以外にも大切な情報がある。	まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った具体的な言葉を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。次の学習では、その記録を使って紹介や説明の文章を直す。 ◎態① (学習前後の記録と、見直した理由)

(3) 板書計画 (縦書き・右から左へ)

右端に題名と本時のめあて。その左に問い「この案内を見て行動するには、どの言葉を確認する必要がありますか」。中央は根拠となる言葉・本文の箇所と、そこから考えたことを上下に対応させる。根拠の本文は先生が教科書から書き入れる。中央から左に児童の考えを並べ、同じところを囲み、違いの理由を線で結ぶ。左端に、本時で確かめた具体的な言葉を含むまとめと、考えを見直した理由を書く欄を置く。縦書きで右から左へ学習の順をたどれるようにする。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

